

泌尿器科の かかりつけ 医

神楽岡泌尿器科 渋谷 秋彦 院長

縮尿や感染尿、結石形成があります。症状のない小さい腎結石や膀胱結石が原因となりますが、濃縮尿（空腹状態で検診に来るよう）に言われていまずので水分も摂取してない方は脱水傾向→濃縮した濃い尿が出ていることとなります。少ない尿をいきんで無理やり出すことも潜血の原因となります。

検診結果の異常について

人間ドックや職場検診などでよく指摘されるものに尿潜血、尿蛋白があります。腎臓の機能に関係があるので、泌尿器科を受診する方が多いと思います。今回、僕の考える検査結果の評価についてお話しします。

1・尿潜血、蛋白尿

慢性腎炎や尿路腫瘍の存在を見逃してはいけません。一番多い原因に濃

尿酸は痛風や高血圧など内科疾患の原因になります。尿路結石の原因ともなります。尿から排出される成分なので、運動後の脱水や尿量の減少によって値が高くなります。eGFRという腎機能

（糸球体ろ過量）評価値があります。CKD（慢性腎機能障害）の指標となります。これらの値も脱水→尿量減少が影響して変動します。先ほどの血尿の問題とも共通しますが、検診などの時には尿をとることが分かっていきますので、固形物や乳製品などの蛋白質を含まない水分は摂取



ます。もちろん前立腺肥大や神経因性膀胱などの排尿異常があっても同様です。

2・高尿酸、腎機能低下

尿酸は痛風や高血圧など内科疾患の原因になります。尿路結石の原因ともなります。尿から排出される成分なので、運動後の脱水や尿量の減少によって値が高くなります。eGFRという腎機能

渋谷 秋彦 ●しげや あきひこ 1961年、旭川生まれ。1988年札幌医科大学卒業。2003年11月に旭川市神楽岡に「神楽岡泌尿器科」開院。日本泌尿器科学会（専門医）、老年泌尿器科学会、日本性機能学会、日本泌尿器内視鏡口ポテイクス学会所属。著書に「気持ちいいオシッコのすすめ」（現代書林刊）。

検討して生活指導の必要性が決まるものです。かかりつけの先生に、よくご相談いただきたいと思います。「コレステロールが高めなんだよね…」だけだとその異常値を問題視できないので、スルーしてしまつてせっかくの検診結果の異常を受け止められなくなりますね。

3・脂質異常、耐糖能異常

いわゆるメタボリックシンドロームのチェックになります。その検査値をしっかりと評価することが大事です。腹囲を測るだけでは皮下脂肪が厚いのか、内臓脂肪が多く心血管病変の原因になるものなのかが分からないものです。血液のデータも悪玉善玉コレステロール、中性脂肪、糖尿病チェックのHbA1cの値はそれぞれがかかりを持っていて、すべての結果を充分

以上の検診結果の異常を考慮して、結石や腫瘍、メタボチェックには腹部CTが最も手軽で有用な検査です。当院はCT検査を受けられるクリニックです。即日検査結果をご説明することが出来ます。検診での異常を指摘された方は、ぜひご相談ください。

当院ではメール相談も受け付けておりますので、ご利用ください。